

アメリカ大和証券が ビジネス基盤にJBossを選択

概要

業種／業界	金融サービス	
地域	ニューヨーク	
課題	信頼性に優れたハイパフォーマンスなポータルをオープンソースで構築し、迅速なアプリケーション開発とコスト削減を実現する	
マイグレーション・パス	プロプライエタリなアプリケーション・サーバとポータル・ソリューションをJBoss Enterprise ApplicationとJBoss Enterprise Portal Platformへ移行する	
ソフトウェア	JBoss Enterprise Portal Platform、JBoss Enterprise Application PlatformおよびJBoss Rules Framework データベース: Sybase SQL (トランザクション処理)、Sybase IQ (実稼動ラインにおけるデータウェアハウス)、Microsoft SQL (トレーニング・データ)、Alfresco Software (ECM: エンタープライズ・コンテンツ管理システム)	
OS	Microsoft Windows 2000	
ハードウェア	インテル デュアルコア Xeon搭載のHP製サーバ	
メリット	信頼性の高いプラットフォームを構築し、想定外のダウンタイムの排除／アプリケーションの開発期間を半分にすることで市場のニーズに速やかに対応／アプリケーション・パフォーマンスの劇的な向上／ライセンス・コストとハードウェア・コストを30万ドル削減	

背景

アメリカ大和証券 (Daiwa Securities America Inc.) は、日本の3大証券会社の1つである大和証券グループ傘下のダイワ・アメリカ・コーポレーションが100%株を所有する非公開の子会社です。アメリカ大和証券は、日米の株式／確定利回り債券／金融先物の売買と、投資銀行業務を行っています。年度末である2008年の3月31日、アメリカ大和証券は純事業収益2兆ドルを記録しました。

課題

2006年、アメリカ大和証券は、同社の業務運営に欠かすことのできない重要なシステムである社内ポータルの継続稼動で重大な問題に直面していました。同社の250名の従業員は業務の遂行に必要なアプリケーションへのアクセスをこのポータルに頼っていたため、頻繁なシステム停止がビジネスと技術の両方に重大な影響を及ぼしていたのです。

DSAwebと呼ばれていたこのポータルはCompliance Dashboardから起動し、バックオフィス統合システムと接続さ

れる120のアプリケーションをサポートしていました。アメリカ大和証券のInformation Technology上席副社長であるTom Cordova氏は当時を振り返り、次のように述べています。「1週間以上継続してサーバを稼動し続けることが出来ない状態にまで至っており、1度システムが停止すると最低でも90分は業務を停止せざるをえませんでした。その間、システムのユーザはビジネスの運営に不可欠な作業が一切行えなかったのです。これほど危機的な状態があるといえるでしょうか。」

この問題の原因は、アメリカ大和証券がポータルの構築に利用していた業界標準の一般的なアプリケーション・サーバにありました。同社はこの最先端のテクノロジーに絶大な信頼を寄せ、プラットフォームの性能を限界まで引き出して利用していました。しかしアプリケーション・サーバのメーカーが、より多くの機能を搭載した新たなバージョンをリリースした際、そこにはバグが存在し、アメリカ大和証券のアプリケーション開発者のフラストレーションをつのらせ、迅速なアプリケーション提供が阻害されてしまったのです。さらに、アメリカ大和証券に対して適切なサポートが提供されなくなっていたことも、状況を悪化させる原因になっていました。

「ベンダーは、直面している問題を解決するために新たなハードウェアとソフトウェア・ライセンスを購入するよう私たちに提案してきました。しかしそれはあまりにも短絡的な考えであると私たちは結論づけたのです。そして私たちは新たなソリューションの模索に入ったのです。」と、Cordova氏は述べています。

ソリューション

すでにアメリカ大和証券では他のインハウスの開発プロジェクトでJBossを利用しており、その実力を垣間見て感銘を受けたCordova氏はフリーバージョンのJBoss.org Portalをダウンロードして自ら試してみたのです。彼が新たなポータルをJBossで構築しようと決断を下すまでに長い時間は必要としませんでした。Cordova氏はDSAwabに求められているミッションクリティカル性を実現するために、サポート/パッチ提供/アップデート/複数年の保守ポリシーが含まれ、エンタープライズ・クラスの安定と信頼性を提供するJBoss Enterprise Portal Platformのサブスクリプションを購入しました。

まず最初にアメリカ大和証券では、そのほとんどがデータベース駆動型であった120のDSAwabのアプリケーションを従来のアプリケーション・サーバからJBossへと移行しました。大掛かりなプロジェクトあったにもかかわらず、この移行はオープンソースのテンプレート作成ツールであるVelocityを利用してテンプレート化することで、わずか12ヶ月で完了しました。Velocityは各アプリケーションがどのようにデータベースをマイニングしているのかを調べ、続いてそれをJBoss Portalのアプリケーション用に再生成しました。この期間に、アメリカ大和証券では新規に80のアプリケーションを開発/オンライン化しました。これは以前のプラットフォームでは不可能だったことです。

「JBossによって、私たちはより迅速にニーズに応えられる企業になりました。ビジネスで新たなアプリケーションが必要になった場合でも、今では即座に提供可能です。関係者全てが満足できる環境が生まれたのです。」アメリカ大和証券 Information Technology、エンタープライズ・システム・アーキテクト兼 上席副社長のSteve Dunstan氏はこのようにコメントしています。

アメリカ大和証券はJBoss Enterprise Middlewareの製品ポートフォリオが提供する様々なソリューションに、絶大なる信頼を寄せています。JBoss Enterprise Portal PlatformとJBoss Rules Frameworkは、未完了の取引割当/異常に多額の取引/顧客の取引信用限度額への接近を従業員に警告するアラート機能をポータル・アプリケーションに組み込むことも可能にしています。アメリカ大和証券ではJBoss Enterprise Application Platformの機能を使いシームレスかつセキュアにアプリケーション間で情報を共有しており、さらに、Alfrescoのオープンソースのコンテンツ管理システムによりシングル・サインオンで従業員が必要なアプリケーションへアクセスできる環境も実現しています。またアメリカ大和証券では、社内のSOA (Service Oriented Architecture)内に分散したアプリケーションに対して非同期でメッセージを送信できるよう、JBoss Enterprise Application Platformのメッセージング・キュー機能をInformatica PowerCenterと組み合わせて利用しています。

メリット

JBossの採用で、アメリカ大和証券のITチームはユーザが生産性を向上するためのサポートに専念できるようになりました。また、ITチームは障害発生時の単なる「急場の火消し」役からも脱却でき、より戦略的なサポートを提供できるようになりました。

信頼性の提供が大前提となるポータル・サービスについてDunstan氏は次のようにコメントしています。「ポータルがダウンしてしまうと、私たちはもう何もできません。JBossプラットフォームは想像を絶する程の信頼性と安定性を提供してくれています。今では想定外のダウンタイムは一切発生していません。」

コストの削減とパフォーマンスの向上も見逃してはいけない大きな成果です。アメリカ大和証券では、以前のソリューションで必要とされていたソフトウェアのライセンス費用とハードウェアに対する支出をなくし、30万ドルのコスト節減に成功しています。「極めて大きな節減効果がありました」と、Cordova氏は述べています。アプリケーションは保守が容易でそのコストも

低く、バグが発見された場合でも速やかに修正することが可能になっています。また、アプリケーションのパフォーマンスも劇的に向上しています。以前のプラットフォームでは15分も必要としていたアプリケーションのコンパイルと公開も瞬時に行えるようになっています。

以前のソリューションでは10秒を要していたポータル・アプリケーションのロードも1秒にまで短縮され、従業員の生産性も更に向上しています。全てのアプリケーションで一貫性が保たれているインタフェースや機能は、操作性に優れているだけでなく、アプリケーションを利用するために必要なトレーニング時間の短縮にも貢献しています。

アメリカ大和証券はJBossに絶大なる信頼を寄せています：

「ポータルがダウンしてしまうと、私たちはもう何もできません。JBoss Enterprise Application and Portalは極めて高い信頼性と安定性を実現しています。JBossなら何も心配することはありません。枕を高くして眠るための欠かせない存在です。」

アメリカ大和証券
Information Technology
エンタープライズ・システム・アーキテクト 兼 副社長
Steve Dunstan

開発者の生産性も大幅に向上しました。アプリケーション開発にオープンソース・コードを利用できるため、新規アプリケーションの開発が今までの半分の時間で可能になりました。「短期間で開発できるということは、市場のニーズに迅速に対応できることを意味します。アプリケーション開発の加速なしでは、ビジネスのサービスや機能をこのように成長させることは不可能だったでしょう。」と、Dunstan氏はコメントしています。

透明性を備えたオープンソース・コードとRed Hatのオープンスタンダードへの準拠も、開発者の労力軽減に貢献しました。「問題が発生した場合も、速やかにインハウスで対応できることが希望なのです。オープンソース・コードなら、自らの手で容易にトラブルシューティングが可能です。」と、Dunstan氏はコメントしています。

JBossに対して社外の手助けが必要になった場合も、Red Hatが卓越したサポートをアメリカ大和証券に提供しました。「JBossのテクニカル・サポートに連絡すれば、即座に適切な人材に取り次いでくれました。それが時には、利用しているコードを書いた本人だったということすらありました。」と、Dunstan氏はコメントしています。また、サポートが必要だった問題をRed Hatが100%解決したことに対してDunstan氏は深く感銘を受けており、それに対して次のように述べています。「もしこれが他のエンタープライズ系ベンダーだったら、問題のうち40%でも解決できればラッキーだったと思っています。」

アメリカ大和証券ではWeb 2.0アプリケーションを開発するための新たなプロジェクトをスタートさせました。このプロジェクトではJBoss Operations Networkで監視されるクラスタ型サーバを導入する予定となっています。

JBossの採用でアメリカ大和証券はリスクを削減しつつ大きな成果を得ることに成功しました。Dunstan氏は最後に、「JBossなら何も心配することはありません。枕を高くして眠るための欠かせない存在です。」と、しめくくりました。

